

新潟県新発田地域振興局長賞

消費税について調べたこと

新発田市立 東中学校 三年 鹿間 綾 仁 さん

今の私にとって「税」というのはあまり身近な存在に感じておりません。ですがよく考えてみると中学生の私でも「税」と接する機会がありました。それは「消費税」というものです。

今の私の知識では消費税は物を買ったときに払うものという感覚です。例えば私はプラモデルが大好きなのですが、二千二百円のプラモデルを買うときに二百円の消費税をお店に払います。その二百円は私に代わり、お店が国に納付していると考えられます。プラモデルを買うことにより、私も「納税者」となれます。

消費税というものが何に使われているか調べてみると、大きく社会保障費に使われていることがわかりました。社会保障費とは年金介護、医療、子ども・子育て支援という今の日本人、将来の日本人にとって重要な分野で税が使われていることに、あらためて消費税の大切さを学ぶことができました。消費税を学ぶ中でも自分が一番深く考えたのは、納税の公平性です。働いている現役だけが納税するのではなく、社会生活を営む人々全員が負担している安定的な財源となることです。消費税は誰もが損をしない理想的な税金なのではと考えることができました。

ですが、消費税を勉強することによって、消費税を「益税」と扱っている事業者もいることがわかりました。消費税を我々、消費者から受け取っていたのにも関わらず、預かった消費税を国に納税しない事業者がいたことに不思議に感じました。

私の母の実家は個人事業主で酪農を経営しております。健全な申告・納税を行っているため「青色申告」と呼ばれる申告制度で税金を納付しています。この度、消費税のインボイス制度が適用されるにあたり、「適格請求書の登録番号」の申請も行いました。インボイス制度は、私の身近なところでも重要な納税制度として動き出しているのです。

消費税を調べた結果、前述したとおり、消費税は国民全員が公平に負担するとともに全員がその恩恵をうけることができる制度だということを理解しました。ですが残念なことに消費税を「益税」として国や地方に納税しない個人事業者がいることもわかりました。

消費税を調べていく中で、インボイス制度を導入することにより「増税」と主張する人もいることもわかりました。ですが消費者から受け取った消費税は正しく納付することは「増税」ではなく適正な納税だということも理解できました。

私のような中学生でも消費税を払い、社会保障の財源として活用できるように貢献していると考えれば、消費税は大切な制度だと思いました。インボイス制度を適用することにより、充実した社会保障が受けられるようになれば、全ての人が消費税は必要で身近な税だと理解できる様になると感じました。